

夏季の広報活動を展開

本年度も夏休み期間を迎え、電池工業会の広報活動が活発化している。「手づくり乾電池教室」は、7月1日を皮切りに既に全国30か所で実施。また、「みらいのでんち」アイデア・コンテストは、作品募集を9月30日まで行っている。全国紙を使った「電池は正しく使いましょう」キャンペーンは、7月5日、7月12日、7月19日にキャンペーン広告を毎日新聞に掲載した。

「手づくり乾電池教室」は、7月1日神奈川県相模原市相模女子大学での開催を皮切りに、全国各地で展開している。電池教室の内容としては、①教育ビデオで、電池の種類、電池の原理や構造、電池の正しい使い方、電池の正しい捨て方、等々を学ぶ、②炭を使った電池の作製や人間も電池の一要素になれるなど、実験を通して電池の原理を実感する、③そ

して「手づくり乾電池キット」を用いて、参加者全員が講師の指導に従って単1形マンガン乾電池を作る、等で電池を体験できる内容になっている。

今年は既に全国30か所での教室が終了。実施例としては、7月23日には北海道釧路市こども遊学館で実施した。ここでの開催は昨年引き続き2回目で、同じ日に10時からと13時30分からの2回開催で、多く



「日本携帯電灯工業会」の会員会社は、規模の小さい中小企業が主体であったため、昭和27年(1952年)ごろになると独自の販売網はあっても親企業を求めてその傘下に入るようになり、系列化が進むようになりました。また、系列に入れたい企業は転廃業するケースも多くなりました。特に東海支部では会員の全員が転廃業し日本携帯電灯工業会を脱会する結果となりました。

中小企業の大企業への系列参加とともに問題となったのが、取引銀行との間における手形割引枠の不足でした。そこで系列企業が集まって設立されたのが、「東京輸出携帯電灯工業協同組合」でした。この組合の主な目的は、商工組合中央金庫による融資の途を拓くことでした。昭和27年4月に創立総会を開き、その後の加入も含め8社が組合に参加しました。

昭和28年6月には日本携帯電灯工業会理事総会を開き、乾電池ブザーを取扱い品目に追加することを目的に定款の改訂を行いました。定款は次のように改訂されました。「本会は乾電池を電源とする携帯電灯、警鳴器、およびこれに類する器具の製造業者の組織として構成員の親睦、連絡を通じ、内外携帯電灯等に関する調査研究を行い、技術の向上、事業活動の公正を期し、斯業の発展に寄与することを目的とする。」

なお、乾電池ブザーの正式名称については、自転車工業会側の意見を求めた上で決定することとし、日本携帯電灯工業会として「乾電池警鳴器」と仮称することとしました。

昭和23年の創立以来使用された日本携帯電灯工業会の名称は、昭和40年10月の定時総会において、昭和41年(1966年)1月1日より「日本携帯電灯電池器具工業会」に変更することを決定し、同年より実施されました。

昭和46年4月には、東京輸出携

電灯工業協同組合を臨時総会で解散しています。20年間にわたって主として金融面において組合員の利益に貢献してきましたが、組合員の減少に伴い、組合本来の活動目的である金融や共同購入販売事業の必要がなくなったことによるものでした。

昭和48年には、22年にわたって理事長として業界の発展に寄与してきた青木神木(青木電器工業)が急逝しました。それで同年5月の臨時総会で、山田直次郎(山田電器工業)が第3代理事長に就任しました。昭和50年の定時総会では山田直次郎が体調不良を理由に辞任したのに伴い、第4代理事長に東國徳(松下電器産業)が選任されました。

日本携帯電灯電池器具工業会と日本乾電池工業会は、会員の半数が重複加入している関係でそれぞれ活動してきましたが、昭和57年ごろになると、企業環境の厳しさを考慮するとこの際合理化のため合併したほうが得策ではないかという意見が、それぞれの工業会で検討されることになりました。両工業会で審議され、両工業会の総会でそれぞれ合併承認決議を得ることになり、昭和57年10月1日に合併することになりました。

昭和23年日本携帯電灯工業会として発足して35年、再び日本乾電池工業会と合体することになりました。

* 敬称略



3代理事長 山田直次郎
(昭和48年5月～昭和50年10月)



4代理事長 東國徳
(昭和50年10月～昭和57年10月)

平成23年 8月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	9日(火)	広報総合委員会	名古屋でんちフェスタ総括、関西でんちフェスタ審議、電池君キャンペーン報告、電池月間キャンペーン検討、他。
	23日(火)	産構審・中環審会議	自動車用バッテリーのリサイクルシステムの見直し(自主取組の進捗、他)。
	24日(水)	167回講習実施委員会	宮城県にて開催した蓄電池設備整備資格者講習の修了考査につき、可否を判定。
	24日(水)	T27回JEA蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備資格審査案件2件を審査し承認。 蓄電池設備の型式認定案件24件を審査し承認、他。
	29日(月)	広報ワーキンググループ	関西でんちフェスタ実施内容の検討。
	30日(火)	国際環境規制総合委員会	海外環境規制に関する情報確認。
二次電池部会	3日(水)	特リ委員会	BAJ自主取組審議、他。
	5日(金)	自動車鉛分科会	IEC,JIS改正審議、他。
	10日(水)	特リ委員会	BAJ自主取組審議、他。
	19日(金)	据置アルカリ分科会	IEC,JIS改正審議、他。
	24日(水)	特リ委員会	BAJ自主取組審議、他。
	24日(水)	据置鉛分科会	IEC,JIS改正審議、他。
	24日(水)	産業電池委員会	産業用電池用途、他。
	25日(木)	電気車鉛分科会	IEC,JIS改正審議、他。
	26日(金)	技術委員会	IEC,JIS改正審議、他。
	31日(水)	特リ委員会	BAJ自主取組審議、他。
	31日(水)	リサイクラー会議(6-67)	自主取組の審議。
小形二次電池部会	5日(金)	LIB安全性技術員会	内部短絡に対する安全性試験の検討。
	8日(月)	ニッケル水素電池輸送ワーキンググループ	ニッケル水素電池輸送規制施行への対応検討。
	22日(月)	国際電池輸送委員会	米国輸送規制対応、リチウム電池輸送の手引書改訂の審議。
	22日(月)	ニカド・ニッケル水素分科会	IEC61951-1・2の修正提案審議、容量表示条件審議。
	23日(火)	リチウム二次分科会	JISC8708の改正提案審議、容量表示条件審議。
	24日(水)	据置LIB分科会	SBA規格審議。
	26日(金)	業務委員会	7月の販売実績及び動態確認。
	29日(月)	小形二次電池技術委員会	IEC関連審議、JIS関する審議、並びに関連委員会の報告。
	30日(火)	次世代蓄電池委員会	消防法対応について。
31日(水)	法規ワーキンググループ	消防法対応について。	
一次電池部会	5日(金)	環境対応委員会	UNEP条約 INC3検討。
	8日(月)	規格小委員会	JIS C 8515、IEC60086シリーズ改正審議。
	9日(火)	リチウム小委員会	中国GB規格、米国輸送規則対応検討、他。
	25~26日	業務委員会	7月の販売実績及び動態確認、他。
	26日(金)	資材委員会	電池主要原材料関税についての調査、他。
31日(水)	環境対応委員会	UNEP条約 INC3検討。	

GSユアサ製 蓄電池システム

株式会社 GSユアサ

株式会社 GSユアサ（社長：依田 誠、本社：京都市南区。以下、GSユアサ）の蓄電池システムが積水ハウス株式会社（社長：阿部 俊則、本社：大阪市北区。以下、積水ハウス）殿の蓄電池を備えた環境配慮型住宅「グリーンファースト ハイブリッド」に採用されました。

近年、地球温暖化防止、CO₂排出量削減のために太陽光発電や燃料電池に注目が集まっており、さらには東日本大震災に伴う電力不足から、蓄電池への注目が急速に高まっています。積水ハウス殿は本日、太陽電池、燃料電池、蓄電池を組み合わせ、創エネと蓄エネを実現した環境配慮型住宅「グリーンファースト ハイブリッド」の発売を発表されました。この住宅は蓄電池システムを備えることで、平常時は安価な深夜電力を利用して光熱費の抑制を可能としています。また、災害などの停電時には蓄電池に貯蔵した電力を利用することで、電気のある安心な暮らしを実現することができます。

蓄電池システムは容量8.96kWhの蓄電池と太陽光発電用パワーコンディショナで構成されています。この蓄電池だけで350W^{*1}の機器を約23時間、450W^{*2}の場合は約17時間バックアップすることができ、蓄電池だけでも日常生活を12時間以上維持することができます。積水ハウス殿は本環境配慮型住宅を発売から当初3ヶ月で、まずは150棟の販売を目標とされています。

これからもGSユアサは、長年培ってきた蓄電池・電源装置の技術を最大限に活用することにより、快適で安心な暮らしをサポートし、環境負荷低減に貢献してまいります。

^{*1} 冷蔵庫200W、液晶テレビ150Wを想定しています。
^{*2} 冷蔵庫200W、液晶テレビ150W、部屋照明100Wを想定しています。

【蓄電池の特長】

1. 優れたサイクル寿命性能

- ・長寿命タイプのクラッドチューブ式開放型鉛蓄電池を、電解液保持材に球状シリカを採用することで、寿命性能を維持したままで密閉化した。
- ・放電深度50%において4000サイクルの寿命性能を実現しており、太陽光発電で発電した電力の貯蔵に最適。

2. 優れた安全性

電池内部に余分な隙間が全くないため、引火性ガスの滞留とそれに対する何らかの点火による電池の破裂がなく、安全で安心な設計。

3. メンテナンスの軽減

蓄電池への補水や比重測定が不要な制御弁式であり、横置き構造とすることで蓄電池端子がすべて前面となっているため、メンテナンス作業を軽減。



顆粒クラッド式制御弁式鉛蓄電池「SLC70-4V」

項目	仕様	備考
形名	SLC70-4V	
セル数(セル)	64	32個
定格容量(Ah)	70	10時間率
電力容量(kWh)	8.96	
公称電圧(V)	128	
質量(kg)	約352	約11kg/個
方式	顆粒クラッド式 制御弁式鉛蓄電池	

6月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2011年6月）

単位：数量—千個、金額—百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

（2009年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「二輪用」が含まれました）

（2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました）

（2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました）

（2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました）

（2011年6月より経済産業省の機械統計が「酸化銀電池」に「その他の乾電池」が含まれました。）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	478,571	59,539	123%	99%	2,614,424	315,112	116%	89%
一次電池計	309,777	10,558	146%	120%	1,720,559	55,353	137%	112%
酸化銀電池	94,122	1,773	105%	142%	516,488	8,761	99%	117%
アルカリ乾電池計	121,574	5,641	120%	121%	699,601	28,804	125%	116%
単 三	60,087	2,163	102%	91%	387,189	13,451	120%	108%
単 四	31,493	1,158	119%	110%	179,121	5,762	125%	102%
その他	29,994	2,320	186%	186%	133,291	9,591	143%	141%
リチウム電池	94,081	3,144	96%	83%	504,470	17,788	83%	80%
二次電池計	168,794	48,981	95%	95%	893,865	259,759	91%	86%
鉛電池計	2,463	12,301	100%	111%	13,999	71,937	95%	107%
自動車用	1,722	6,915	96%	104%	9,849	40,763	92%	105%
その他の鉛蓄電池	741	5,386	111%	122%	4,150	31,174	101%	109%
アルカリ蓄電池計	53,965	13,382	86%	92%	277,883	60,626	83%	69%
ニッケル水素	35,386	11,091	84%	93%	184,920	47,840	82%	65%
その他のアルカリ蓄電池	18,579	2,291	89%	88%	92,963	12,786	87%	88%
リチウムイオン蓄電池	112,366	23,298	101%	90%	601,983	127,196	94%	86%

6月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2011年6月）

単位：数量－千個、金額－百万円（小数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	251,116	28,756	102%	101%	1,286,573	150,101	89%	89%
一次電池計	117,813	2,532	114%	115%	572,358	11,692	91%	89%
マンガン	394	11	48%	49%	5,173	137	128%	128%
アルカリ	15,354	231	91%	78%	94,887	1,410	94%	80%
酸化銀	49,322	662	120%	142%	233,768	2,852	92%	106%
リチウム	51,896	1,470	121%	111%	230,894	6,789	89%	83%
空気亜鉛	797	9	52%	39%	7,415	80	89%	63%
その他の一次	50	150	24%	175%	221	425	17%	119%
二次電池計	133,303	26,224	94%	99%	714,216	138,409	87%	89%
鉛蓄電池	132	713	131%	147%	779	3,940	103%	125%
ニカド	14,948	1,285	82%	79%	73,594	6,626	83%	80%
ニッケル鉄	0	1	—	—	0	1	4%	109%
ニッケル水素	12,870	3,461	79%	87%	75,368	21,167	85%	92%
リチウムイオン	99,191	19,037	100%	100%	534,952	96,512	91%	85%
その他の二次	6,163	1,727	76%	133%	29,523	10,164	53%	125%
全電池合計（輸 入）	168,988	9,774	218%	139%	959,758	53,040	193%	118%
一次電池計	160,302	2,624	229%	319%	913,832	13,229	201%	228%
マンガン	44,163	640	263%	346%	220,422	2,831	191%	248%
アルカリ	102,122	1,522	258%	370%	611,283	8,209	231%	295%
酸化銀	389	9	68%	86%	2,543	52	92%	50%
リチウム	7,359	347	87%	228%	46,756	1,460	92%	114%
空気亜鉛	4,170	55	171%	137%	19,701	294	172%	143%
その他の一次	2,100	51	90%	215%	13,127	384	128%	136%
二次電池計	8,686	7,151	116%	115%	45,925	39,810	111%	101%
鉛蓄電池	752	2,522	128%	138%	4,396	14,795	116%	121%
ニカド	680	160	102%	70%	3,338	1,057	89%	75%
ニッケル鉄	1	2	>>>	474%	64	13	336%	106%
その他の二次	7,254	4,467	116%	108%	38,128	23,945	113%	93%